

【背景】

日本で高齢者の運転免許保持者が増加しており、運転停止が交通安全や社会的問題として着目されている。運転停止は身体的・精神的な健康や生活の質（QOL）に影響を与える可能性が指摘されているが、その具体的な影響や要因については十分に解明されていない。特に、日本の高齢者においては、代替交通手段の重要性や自己申告による評価の課題も考慮しながら、運転停止と QOL の関係性を明らかにする必要がある。

【方法】

研究デザイン：横断的調査研究 Web ベースの質問紙調査

対象：日本に居住する 65 歳以上の高齢者で、運転免許を持っていない、または運転をやめた人 1200 名

除外基準：

測定：自己記入式の質問紙

評価尺度： HRQOL（健康関連 QOL）HUI3 と SF-8 や、運転免許の返納経験について質問。

運転免許返納者は返納前 HUI3 と SF-8 も依頼

統計解析：

- ・多変量回帰分析：HRQOL（後のスコア）を従属変数として、性別、年齢、疾患の有無、運転停止の有無、交通アクセス距離などの説明変数を設定し、これらが QOL にどの程度影響しているか分析
- ・比較分析（t 検定）：運転を停止した高齢者と運転をしていない高齢者の間で、HRQOL スコアの差異を比較
- ・前後比較：運転停止前と後の HRQOL スコアを、運転停止経験者について比較。

【結果】

運転免許を返納または停止した高齢者の健康関連の QOL（HRQOL）は、

・運転停止後の QOL の変化：運転を続けている人や運転経験のない人よりも有意に低い。

HUI3 のスコアが「-0.816」から「-0.728」に低下し ($p < 0.001$)

SF-8 の身体的側面薬物スコアも「51.5」から「49.5」に低下しています ($p < 0.001$)。

・運転停止前後の QOL の変化：運転をやめた後の QOL は、停止前に比べて有意に低下。

・影響要因の特定：運転停止後の QOL に影響を与える要因として、「運転停止からの経過年数」や「主要な疾患の有無」が挙げられる。運転停止が長期間にわたる場合や健康状態が悪化している場合に QOL の低下がより顕著になる。

・運転免許を返納した人のうち、多くは代替交通手段を利用していないことも明らかとなっており、これが QOL の低下に影響している可能性が示唆される。

【結論】

運転停止による社会参加や外出頻度の低下が高齢者の QOL に悪影響を及ぼす可能性を示唆しており、今後は安全な代替交通手段の確保や支援策（ライドシェアなど）の制度化や必要性があることを示している。したがって、高齢者の自立した生活と QOL 維持のためには、運転免許停止後の生活支援を整備することが重要である。